３年間の主な活動　2018（平成30）年度～2020（令和2）年度

①山陰教区寺族婦人会連盟50周年記念大会（ビッグハート出雲）
②2018年度若寺族婦人研修会（本願寺山陰教堂）
③2019年度若寺族婦人研修会（鳥取伯耆組本巌寺）
④2020年度常任委員会（本願寺山陰教堂・在任期間中最後の会議）

寺婦のひろば

第23号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子

三年間の任期を終えて

山陰教区寺族婦人会連盟
委員長　福井春美

新型コロナウイルス感染症が発生し、一年が経過しました。この間、さまざまな不安から、社会は大きく変わりました。今まで当たり前だったことが当たり前でなくなり、見えなかったことや気付かなかったことが、露わになってきました。

例えば、葬儀の形態も家族葬が主流となり、より心のこもったお別れをすることができてよかったという声も聞かれます。さまざまなことにおいて、コロナ禍に対応すべく、これまでの形式が変わってきています。必要なもの・本質的なことだけに削ぎ落とされ、基本に戻っているような気がします。

浄土真宗は、間もなく立教開宗八百年を迎えます。時代の変化に対応しながら、さまざまな困難を乗り越え、八百年もの長きにわたって引き継がれてきました。このすばらしい教えに出遇えた私たちは、大きな不安に包まれ心の支えが強く求められている今こそ、お念仏のよろこびを伝えていかなければなりません。

一昨年、私たちは、五十周年という節目を迎え、新たな歩みをはじめました。山陰教区寺族婦人会連盟の皆さまがより一層つながりを深め、新しい時代に即した寺院の在り方を探り、念仏者として周りの人たちと温かなつながりを広めていけたら―と、願うところです。

さて、私たちが役員をお引き受けして、はや三年が過ぎ役員交代の時期となりました。この間、さまざまなご縁をいただき、お育てを賜りました。皆さまのご協力に心より感謝し、お礼申しあげます。ありがとうございました。

これからも、坊守としてともに歩みを進めてまいりたく存じます。どうぞよろしくご指導お願い申しあげます。

合掌

山陰教区寺族婦人会連盟
委員（各組代表）の皆さまからのメッセージ

三年間、委員の皆さまには大変お世話になりました。
委員の皆さまに、在任中の思い出や感想、今後の寺院活動への願い等を取りまとめいただきましたので、紹介します。

心に残る三年間でした。とりわけ、故辛川昭子副委員長との出会いは、私にとって生涯忘れることのないであろう、そして、大きなおはたらきの中でいただいたご縁でありました。

ご病気が判明し療養中であっても、可能な限り会合にお見えでした。そのような中で、私は数回のメールと手紙のやりとりをさせていただきました。

初めていただいた返信メールには、「浄土真宗でよかった」と綴られてあり、それが最後となったメールには、「お念仏にであえて本当によかった！」と結ばれてありました。

不思議なご縁で出会い、わずかな時間の中で、このような言葉を交わすことができたこと、思い出すたび胸がいっぱいになります。悲しみを通して満たされた世界を知らされたように思います。なもあみだぶつ。

在任中支えてくださいました皆さまに、心よりお礼申しあげます。ありがとうございました。　合掌

副委員長　河野宜子（三隅組）

◆

世界が新型コロナウイルス感染症にみまわれ、いろいろな事が中止と自粛に。当たり前と思っていたことが当たり前ではない生活となりました。

三年間、常任委員をさせていただき一番心に残ったことは、寺族婦人会連盟五十周年記念大会です。皆さまの協力とチームワークで無事に終えることができました。残念なことに、任期最後の年はコロナ禍により不完全燃焼で終わってしまいましたが、在任中には常任委員でなければ経験することのなかった多くのことを経験させていただき大変勉強になりました。

三年間ともに常任委員をさせていただいた皆さまとお遇いできたことも大きな宝物です。

ありがとうございました。

常任委員　藤井佳恵（出雲南組）

◆

昨年新型コロナウイルス感染症が発生し、収束しないまま一年が過ぎました。目に見えないコロナに不安を感じながら、今までと一変した生活を余儀なくさせられ、いろいろな研修会、行事が中止となりました。

このような時代だからこそ、時代に即した新たなご縁づくりも必要なのではないかと思います。

三年間常任委員として活動に参加させていただきました。任期が終わろうとしている今、大切なご縁をいただいたと感じています。一年目の研修会、二年目の五十周年記念大会、（三年目の研修会はコロナのため中止となりました）などなど、全てのことが多くのご縁と支えによって開催されていることを実感しました。一日でも早くコロナが収束して研修会、行事、法座が元のように開かれ、お念仏のご縁が今まで以上に弘まることを念じています。

常任委員　玉野厚美（飯南組）

◆

常任委員として、三年間かかわらせていただき、たくさんの学びがありました。在任中には五十周年記念大会が開催され、心に残るイベントでした。その際発行された「活動事例集」は各寺院で考えられたアイディアあふれるたくさんの活動が掲載されており、とても参考になるものでした。

また昨年の「寺婦のひろば」増刊号で、コロナ禍における寺院活動についてのアンケート調査もたくさんのヒントをいただける内容でした。

記念大会のひとコマ。ビッグハート出雲の楽屋でランチタイム
（寺族婦人会連盟50周年記念大会）

遊覧船に乗って、ゆったり堀川めぐり
（2018年度若寺族婦人研修会）

ご講師の菊川先生を囲んで、記念撮影
（2018年度寺族婦人研修会）

今でも時折、開いて読み返してみると、悩みながらも模索して活動しておられる様子が伺え、共感できるものでした。

寺院活動をしていくうえで、寺族婦人としての自分の役割をどう担っていけば良いのか考えるとき、他の寺院の活動の様子を知ること、そのためには寺族婦人同士の交流、親睦が大切であり、寺族婦人会などで情報を共有し合えることは、何より強い味方であると感じています。

常任委員　黒河ひろ子（大田東組）

◆

出無精の私が、縁あって皆様とお会いすることができました。一回一回お会いするうちに、気心も知れて、これからご一緒にと思った矢先、新型コロナウイルス感染症という未知の病気により、いろいろな行事が中止となりました。人生「上り坂　下り坂　ま坂」。毎日の生活が大きく変わり室内暮らしです。

水木しげる記念館見学＆水木しげるロード散策。お子さん連れで楽しまれた方も（2019年度若寺族婦人研修会）

出会いにありがとうございました。またどこかでお会いしましょう。

常任委員　三上正子（大田西組）

◆

三年間の任期で寺族婦人会連盟五十周年記念大会を開催できた事は大変喜ばしいことだと思います。

令和二年の年明けとともに新型コロナウイルス感染症が拡大し、いろいろな行事が中止となりました。感染拡大が続く中で私達の命を守るため、やむを得ない決断だと思います。このような状況の中で念仏者としてお念仏ができることの幸せをかみしめながら日々を過ごして行くことが大切であると思いました。まだまだ寒さは続きますが、歴の上では春を迎えました。寒さだけでない状況に春の兆しが感じられるのはいつのことでしょうか。あともう少しの辛抱でありますようにと願うばかりです。

常任委員　大草悦子（佐波組）

◆

水木しげるさんのキャラクターに囲まれながら、親睦を深めました（2019年度若寺族婦人研修会）

三年前、気持ちの整理がつかないまま江津組寺族婦人会会長・教区連盟常任委員をお引き受けいたしました。

活発に活動されている組内外のご寺院の皆様に比べ取り立てて特徴のある寺院活動をしていない私どもにとりましては「何をお手伝いすれば」と当初より悩み、組三役の皆様と例会を開催し、寺族の立場での情報提供を組内に行って参りました。それぞれのご寺院では個々には多様なお悩みをお持ちです。「そのお悩みは解決できないまでも共有できれば」と会の運営を行って参りました。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響で益々課題が多くなり、今後の寺院は新たなスタイルを考えざるを得ない状況となって参りました。教区寺婦のひろば増刊号の新型コロナウイルス感染症のアンケート・設問六で護持運営の中で仏事に関わる不安が述べられていましたが、旧くは惣講寺の立場でご門徒さんの少ない私どもでも同じです。

葬儀、法事が家族中心となり、寺院や宗教に対する思いが大きく変化してきました。それは真宗のみではなく他宗においても、「葬儀、仏事が儀式として成立しない」とのお話がありました。「コロナ禍という制限の中で、制限のためだけでなく儀式に関わる檀家さんの姿が見えてきたように思えます」と聞かされました。

昨年お盆までご法座を中止していました。その間住職は自責の念から法座や研修会を開けないお詫びを折り込みチラシに託していました。

「お寺の活動は従来通り、お聴聞の場を提供し、苦悩を共有することを目的とし、スタイルは臨機応変に変えていく。」

「ご法座にお参りいただく、お念仏を身近に感じていただく努力。寺院の維持・管理、経営はそのことが直結している。」

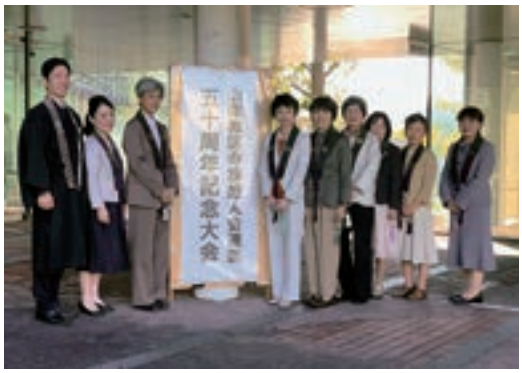
悩んだ結果、住職はこのように結論付けました。

常任委員　三瀧　操（江津組）

◆

コロナ、コロナで明け暮れた昨年も終わり、今年も当分は、収束しそうにありませんが、ワクチン接種の望みが出てきて少し希望が持てる年になりそうです。

組の代表をさせていただいた最後



会場入口で、スタッフ記念撮影（寺族婦人会連盟50周年記念大会）

の年なのに、研修等もなく何もできずに終わってしまいました。法座や葬儀のありさまも変わってしまった一年でしたが、平静の状態にもどれる様に念じる日々です。　合掌

野田道子（邑智東組）

◆

今までのように一度に多くの方のお参りが難しいのであれば、他の方法を考えねばなりません。知り合いの寺院ではリモートの法事をしたと聞きました。ゆっくりでも、あらゆる方法を考えていく時代となりました。

ステイホームと申しましても、自分の足を運んでお寺へ参るという基本ベースは崩したくありません。この状態が収束した時、浄土真宗が築きあげたことが取り返しのつかないことにならないよう気を引き締めたいものです。

先日、ご法事で参って来られた中年の男性がコロナ禍をご縁に「いよいよお寺さんの出番ですね」と言われました。コロナは身体を蝕んでしまいますが、心まで同時に蝕んでしまいました。今、寺族がしっかり寄り添う中に聞き上手になり、その悩みを共有して行くところからでも一緒に歩ませていただくこと、ということでしょうか。

せっかく「お寺の出番ですね」と仰ってくださったのですから、このチャンスをしっかりといただきましょう。

陶山法恵（鹿足組）

◆

「寺婦のひろば」では、各ご寺院でさまざまな取り組みがなされていました。今後の寺院活動の参考にさせていただきたいです。法座は休座しておりましたが、十一月の報恩講だけは開座させていただきました。これからも状況を見ながら活動していきたいです。

教区寺婦五十周年記念大会では活動事例集の発行で各組、各寺院での活動状況を紹介していただき、横のつながりを深め記念すべき大会でした。

また、組で計画していた令和元年度の寺婦研修旅行も実施することができました。新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、来る、二〇二三年にご本山でお勤まりになる慶讃法要には、皆様方とご一緒に参拝できることを願っております。

福井委員長、就任最初の研修会挨拶
（2018年度若寺族婦人研修会）

◆

「寺婦のひろば」増刊号を読ませてもらい、他の組や寺院の様子や、記事を読んでその方の考え方や気持ちがわかりました。自分たちの今後の活動の参考となり、良かったです。

この三年間、常任委員の皆様には、五十周年記念大会をはじめ研修会等お世話になりました。

大会では教区内各地から来られていて、いつもなかなか会えない坊守さんとも会えて良かったです。五十年の歴史を感じる大会でした。

新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が縮小となっているこの一年でしたが、その中でも、人の心を育てる、おだやかに過ごせる活動ができることを願っています。

◆

いろいろな思いの中、三年間が過ぎたように思います。とりわけ最後の一年はコロナ、コロナでほとんどの活動ができない状態でした。そんな中でも、各お寺では工夫をして、法座を開催されておられたようです。

いつまで続くかわからないこの状況では、今できることを、できる範囲でさせていただくことが大切なのかなと思います。

たくさんの方に出遇え、ご縁をいただきました事、感謝いたします。ありがとうございました。

◆

「寺婦のひろば」増刊号では新型コロナウイルス感染症感染拡大の中、各組内の状況やさまざまな取り組みを知ることができて良かったと思いました。五十周年記念大会においても、活動事例集によって、各ご寺院の教化活動に触れることができました。

常任委員の方々や皆さんのおかげで三年間の任期を終えることを感謝しております。ありがとうございました。

◆

「寺婦のひろば」増刊号を通して、コロナ禍における各ご寺院の対応を知ることは、自坊の対応を考えるうえで大変参考になりました。聞法の道場としてのお寺を護持していくために、感染症対策と併せて、伝道の手段を模索していきたいと思います。

2019年度の若寺族婦人研修会の担当は、鳥取伯耆組の皆さん。境港市・本巌寺様にて、波北先生のお話を聞かせていただきました（2019年度若寺族婦人研修会）

2019(令和元)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 一般会計 歳計決算

歳入の部

款	項	費　目	決算額	予算額	対比△減	説　　明
1		会費	475,500	480,000	△ 4,500	
	1	本年度	475,500	480,000	△ 4,500	1,500円×317単位分 (3単位減)
	2	過年度	0	0	0	
2	1	助成金	300,000	300,000	0	教区助成金 200,000円 大会助成金 100,000円(教区)
3	1	回金	0	0	0	特別会計より回金
4	1	参加費	38,000	100,000	△ 62,000	研修会参加費
5	1	雑収入	118,095	14,523	103,572	研修会･記念大会ダーナ、利息等
6	1	前年度繰越金	205,477	205,477	0	2018（平成30）年度からの繰越金
		合計	1,137,072	1,100,000	37,072	

歳出の部

款	項	費　目	決算額	予算額	対比※超過	説　　明
1	1	研修費	175,410	200,000	24,590	研修会経費
2	1	会議費	343,290	400,000	56,710	代表者会、常任･編集委員会等
3	1	事務通信費	53,335	50,000	※ 3,335	郵券料・事務消耗品
4	1	教化費	88,000	90,000	2,000	寺婦のひろば
5	1	回金	250,000	250,000	0	50周年記念大会への回金
6	1	諸費	0	40,000	40,000	諸経費
7	1	予備費	120,000	70,000	※ 50,000	災害義援金・見舞金
		合計	1,030,035	1,100,000	69,965	

歳　入	1,137,072
歳　出	1,030,035
差引残額	107,037

※翌年度へ繰越

2019(令和元)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 特別会計 歳計決算

歳入の部

款	費　目	決算額	予算額	対比△減	説　　明
1	前年度繰越金	552,167	552,167	0	前年度繰越金
2	回金	0	0	0	一般会計からの回金
3	雑収入	4	7,833	△ 7,829	預金利息等
	合計	552,171	560,000	△ 7,829	

歳出の部

款	費　目	決算額	予算額	対比※超過	説　　明
1	翌年度繰越見込金	402,171	410,000	△ 7,829	翌年度繰越見込金
2	回金	150,000	150,000	0	50周年記念大会へ回金
	合計	552,171	560,000	△ 7,829	

※差引残高 402,171 円を繰越金として翌年度へ繰り越しました。

2020(令和2)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 一般会計 歳計予算

歳入の部

款	項	費　目	2020年度予算	2019年度予算	対比△減	説　　明
1		会費	475,500	480,000	△ 4,500	
	1	本年度	475,500	480,000	△ 4,500	1,500円×317単位分
	2	過年度	0	0	0	
2	1	助成金	200,000	300,000	△ 100,000	教区からの助成金
3	1	回金	0	0	0	特別会計より回金
4	1	参加費	350,000	100,000	250,000	研修会参加費 ※一泊研修開催を検討することを踏まえ増額
5	1	雑収入	7,463	14,523	△ 7,060	預金利息等
6	1	前年度繰越金	107,037	205,477	△ 98,440	
		合計	1,140,000	1,100,000	40,000	

歳出の部

款	項	費　目	2020年度予算	2019年度予算	対比△減	説　　明
1	1	研修費	600,000	200,000	400,000	研修会参加費 ※一泊研修開催を検討することを踏まえ増額
2	1	会議費	150,000	400,000	△ 250,000	常任委員会・編集委員会等 ※各組代表者会中止に伴い減額
3	1	事務通信費	50,000	50,000	0	郵券料・事務消耗品
4	1	教化費	90,000	90,000	0	寺婦のひろば調製
5	1	回金	30,000	250,000	△ 220,000	特別会計への回金 ※昨年度は、50周年記念大会への回金を含む
6	1	諸費	40,000	40,000	0	諸経費
7	1	予備費	180,000	70,000	110,000	
		合計	1,140,000	1,100,000	40,000	

2020(令和2)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 特別会計 歳計予算

※記念大会等の大規模行事を開催するための積立

歳入の部

款	費目	2020年度予算	2019年度予算	対比△減	説　　明
1	前年度繰越金	402,171	552,167	△ 149,996	前年度繰越金
2	回金	41,588	0	41,588	一般会計からの回金 30,000円 50周年記念大会残金 11,588円
3	雑収入	6,241	7,833	△ 1,592	預金利息等
	合計	450,000	560,000	△ 110,000	

歳出の部

款	費目	2020年度予算	2019年度予算	対比△減	説　　明
1	回金	0	150,000	△ 150,000	※2款から1款に変更
2	翌年度繰越金	450,000	410,000	40,000	翌年度への繰越金 ※名称を変更し、1款から2款に変更
	合計	450,000	560,000	△ 110,000	

2020(令和2)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 ダーナ会計 歳計予算

※2020（令和２）年度開設。ダーナ活動を行うための基金

歳入の部

款	費目	2020年度予算	説　　明
1	ダーナ献金	50,000	目標献金額（寺婦研修会、各組協力等）
2	回金	0	一般会計・特別会計よりの回金
3	雑収入	1,000	預金利息等
	合計	51,000	

歳出の部

款	費目	2020年度予算	説　　明
1	ダーナ活動費	50,000	ダーナ活動費
2	翌年度繰越金	1,000	翌年度への繰越金※
	合計	51,000	

※残金は基金として翌年度へ繰越

社会にあふれる「もったいない」を「ありがとう」へ変える取り組み、フードバンク・フードドライブ活動にご協力ください

「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）の重点プロジェクトにおける宗門全体の実践目標〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉―子どもたちを育むために―の一環として、山陰教区において「フードバンク」「フードドライブ」活動を実施しております。

ご寺院のお供えやご家庭で食べきれない食品がありましたら、教務所までお持ち寄りください

また、皆さまのお住いの市町村社会福祉協議会でもフードバンク事業が行われています。個々の寺院や数か寺協働で、または組で、門信徒の皆さまの協力を得て、この活動に取り組んでいただければと思います。

皆さまのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

ダーナ活動について「ダーナ会計」を開設

当連盟のダーナ活動について「大きな災害に備えるような取り組みをしてはどうか」「独自にダーナ献金を行っている組もあり、それを受け入れる体制を教区寺婦連盟で作ることはできないか」、というご提言をいただいておりました。

こうした状況を受け、さらなるダーナ活動の広がりをめざすため、二〇二〇（令和二）年度より、教区寺婦連盟「ダーナ会計」を開設することになりました。

研修会でいただいたダーナ献金や、各組からお寄せいただいたダーナ献金をこの会計に収納し、必要に応じて支援いたします。送金先・送金額については、常任委員会で協議を行います。

ダーナ献金は、随時承っております。ご協力くださいますようお願いいたします。詳しくは、事務局までご連絡ください。

●山陰教区寺族婦人会連盟事務局
電話 〇八五二―二一―四七四七
（山陰教区教務所内）

二〇二〇（令和二）年度「ダーナ献金」のご報告

・ダーナ献金を
お寄せいただいた皆様
出雲南組寺族婦人会、飯南組寺族婦人会、大田東組寺族婦人会、大田西組寺族婦人会、川本組寺族婦人会、三隅組寺族婦人会
（組番号順、敬称略）
合計金額：五八、〇〇〇円

二〇二〇（令和二）年度のダーナ活動

・「令和二年七月豪雨」
山陰教区義援金三〇、〇〇〇円
・新型コロナウイルス感染症
対策支援（鳥取県・島根県）
二〇、〇〇〇円
（各県一〇、〇〇〇円）

※ダーナ会計の残金は、基金として翌年度に繰り越し、災害支援に備えます。

おくやみ

山陰教区寺族婦人会連盟・辛川昭子副委員長（鳥取因幡組 正覺寺）が、二〇二一（令和三）年二月十二日、ご逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。

辛川氏は、二〇一八（平成三十）年四月、山陰教区寺族婦人会連盟副委員長にご就任されました。令和元年度に開催した五十周年記念大会では、企画段階から携わっていただくなど、当連盟の活動にご尽力くださいました。

編集後記

二〇二〇（令和二）年四月、全国に緊急事態宣言が発令されました。それ以降、ほとんどの教区行事が中止・延期を余儀なくされました。また、各ご寺院においては、法座活動やご法務に大きな影響があったと伺っています。

そんな中、教区寺族婦人会連盟では、コロナ禍におけるご寺院の活動状況を紹介するため、「寺婦のひろば 増刊号」を発行しました。各ご寺院で様々な課題を抱えられる中、事例を共有できたのは意義深いことであったと思います。

三年間の在任期間中、正副委員長・常任委員・各組委員の皆さまには大変お世話になりました。また、五十周年記念大会では、会員の皆さまのご協力をいただきながら、無事開催することができました。

まだまだ制限のある中ですが、令和二年度も寺族婦人の皆さまの「横のつながり」をさらに広げていけるような活動に取り組んでいきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（事務局）